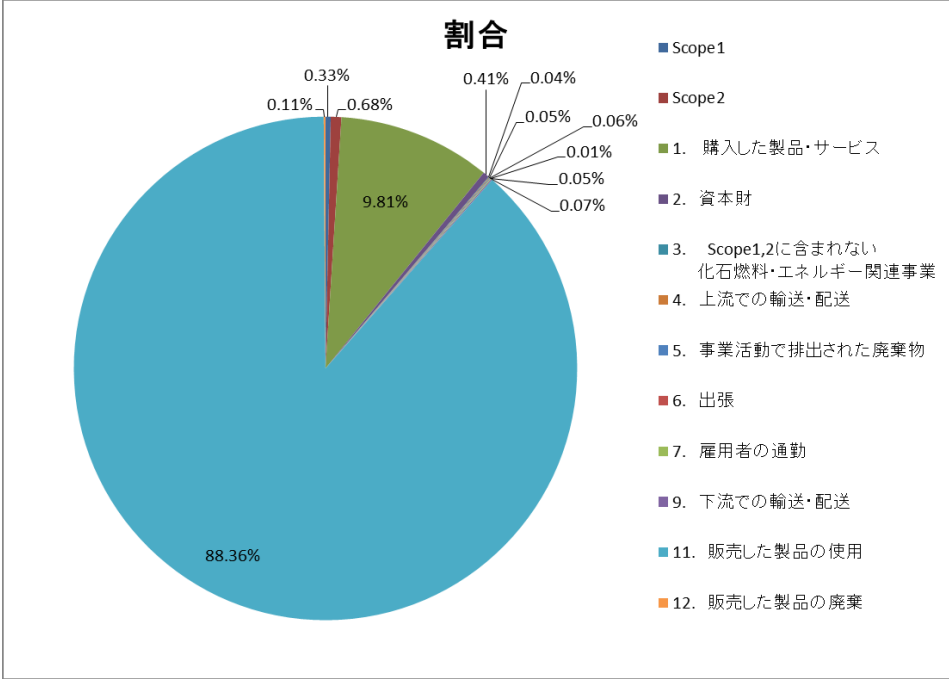


日立建機株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業● 事業概要：建設機械・運搬機械及び環境関連製品等の製造・販売・レンタル・アフターサービス● 事業規模[任意]：（売上、拠点数、従業員数など） 資本金 815億7,659万円、従業員数 連結：21,447名
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2030年に2010年比で29%削減</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2030年に2010年比で33%削減</p>

日立建機株式会社

項目	内容																											
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 (※割合は必須、グラフを挿入) 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : [tCO2] (任意) 																										
	 <p>割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope1</td> <td>88.36%</td> </tr> <tr> <td>Scope2</td> <td>0.68%</td> </tr> <tr> <td>1. 購入した製品・サービス</td> <td>9.81%</td> </tr> <tr> <td>2. 資本財</td> <td>0.11%</td> </tr> <tr> <td>3. Scope1,2に含まれない化石燃料・エネルギー関連事業</td> <td>0.33%</td> </tr> <tr> <td>4. 上流での輸送・配送</td> <td>0.41%</td> </tr> <tr> <td>5. 事業活動で排出された廃棄物</td> <td>0.04%</td> </tr> <tr> <td>6. 出張</td> <td>0.05%</td> </tr> <tr> <td>7. 雇用者の通勤</td> <td>0.01%</td> </tr> <tr> <td>9. 下流での輸送・配送</td> <td>0.05%</td> </tr> <tr> <td>11. 販売した製品の使用</td> <td>0.06%</td> </tr> <tr> <td>12. 販売した製品の廃棄</td> <td>0.07%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	Scope1	88.36%	Scope2	0.68%	1. 購入した製品・サービス	9.81%	2. 資本財	0.11%	3. Scope1,2に含まれない化石燃料・エネルギー関連事業	0.33%	4. 上流での輸送・配送	0.41%	5. 事業活動で排出された廃棄物	0.04%	6. 出張	0.05%	7. 雇用者の通勤	0.01%	9. 下流での輸送・配送	0.05%	11. 販売した製品の使用	0.06%	12. 販売した製品の廃棄	0.07%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : [tCO2] (任意)
	Category	Percentage																										
Scope1	88.36%																											
Scope2	0.68%																											
1. 購入した製品・サービス	9.81%																											
2. 資本財	0.11%																											
3. Scope1,2に含まれない化石燃料・エネルギー関連事業	0.33%																											
4. 上流での輸送・配送	0.41%																											
5. 事業活動で排出された廃棄物	0.04%																											
6. 出張	0.05%																											
7. 雇用者の通勤	0.01%																											
9. 下流での輸送・配送	0.05%																											
11. 販売した製品の使用	0.06%																											
12. 販売した製品の廃棄	0.07%																											
<p>Scope3の上記以外のカテゴリーは事業特性上非該当につき、省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : [tCO2] (任意) 目標の対象セクター : ガテコリー11 																											

日立建機株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 気候変動による異常気象は輸送に影響を与える。輸送が滞るとサプライヤーからの部品供給、顧客へのサービスに支障を与え、事業上の大きなリスクとなりうる。● 炭素税などCO2に対してのコストが上がると自社のハイブリッド、電動、IoTのような電動化による省エネ製品が普及する可能性が高くなる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● SBT取得により、自社の省エネ目標をより高いレベルに設定し、結果的に生産性の向上、コスト削減につながる。また炭素税や他の規制に対しての強靱性を持つことができる。● Scope 3の目標は製品の目指す方向性を明確にステークホルダーに示すことができる。

日立建機株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 環境部門では従来から進めている長期目標に対し、さらなる削減案を検討し、幾つかの前提条件で2030年までのシナリオを作成した。これらのシナリオの実現性をグループ会社があつまる環境部会、環境本部会議で審議し、削減目標を承認・決定していく。以上の社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出する。● 本議論では外的要因による目標未達の可能性や高い目標へのアプローチ方法などが議論された。またSBTの必要性も議論することで、全社目標の必要性は理解を得ることが出来た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 今後の経済状況の変化やScope2の換算係数の増減など外的要因による条件の変化が削減シナリオに与える影響などの検討していく。さらに排出権の利用など可能な方策も引き続き検討していく。